

不動堂本尊 臨時遷座

藤沢・長徳寺 解体・新築控ええ本堂へ

一関市藤沢町保呂羽の長徳寺（渋谷真之住職）で1日、解体・新築を控えてい



解体・新築を控えた長徳寺の不動堂から運び出される不動明王座像

る不動堂の本尊の遷座（移動）作業が行われた。不動明王立像を胎内に収め、満昌寺（湯島）を経て1894（明治27）年に長徳寺に受け継がれ、境内に不動堂を建築。その際に蘇民祭も伝わり、現在では国選択無形民俗文化財の「岩手の蘇民祭」の一つとなった。不動堂は1949年に改築されたが、東日本大震災などを経て破損や老朽化が進んでいた。

する地元の信徒らが仏像などを同寺本堂に運び込み、6月下旬に始まる解体工事の準備を整えた。新築は不動堂の130周年記念事業で、次回の同寺蘇民祭が行われる2025年3月には落慶を迎える見込み。

本尊の不動明王座像は木製。智拳院道場（同市花泉町湯島）の本尊だった不動明王立像を胎内に収め、満昌寺（湯島）を経て1894（明治27）年に長徳寺に受け継がれ、境内に不動堂を建築。その際に蘇民祭も伝わり、現在では国選択無形民俗文化財の「岩手の蘇民祭」の一つとなった。不動堂は1949年に改築されたが、東日本大震災などを経て破損や老朽化が進んでいた。

作業には同本部と同寺から約20人が参加。本尊や備品を不動堂から手際よく運

び出した。同蘇民祭の袋ねじり（蘇民袋争奪戦）の取り手を記録した木製の額なども丁寧に移動した。

不動堂の新築は9月ごろ着工の見込み。本部長の小野寺恒雄さん（79）は「数年がかりの事業がようやくここまで来た。引き続き皆さんの協力を得て工事を進めたい」と話していた。